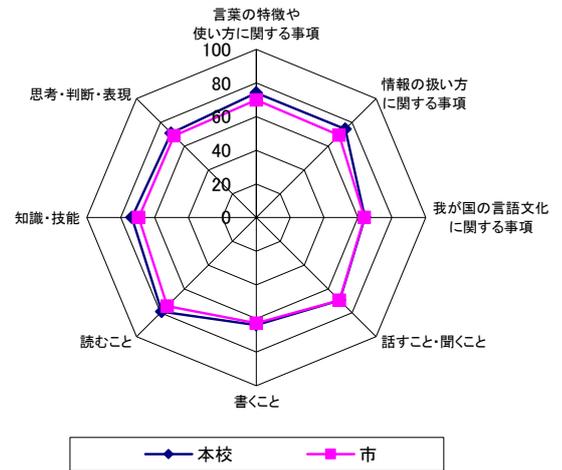


宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 74.1 | 69.9 | 72.3 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 74.3 | 69.2 | 73.0 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 64.1 | 63.8 | 66.0 |
| | 話すこと・聞くこと | 69.6 | 69.5 | 71.5 |
| | 書くこと | 63.9 | 62.8 | 67.1 |
| | 読むこと | 79.0 | 74.4 | 73.7 |
| 観点別 | 知識・技能 | 73.4 | 69.4 | 71.9 |
| | 思考・判断・表現 | 71.1 | 68.8 | 70.6 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

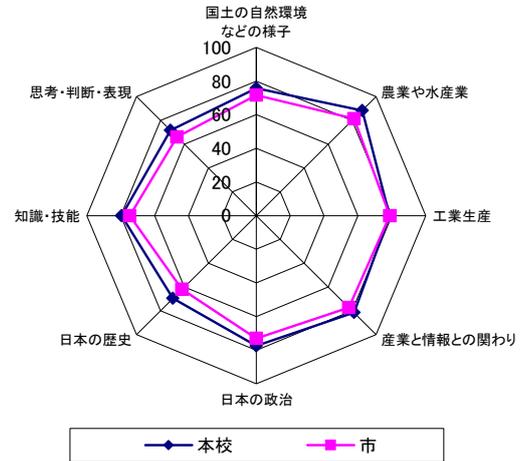
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|--|--|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 平均正答率は、74.1%で市全体よりも4.2ポイント上回る。 ○漢字を読む設問に関しては、正答率は95.5%で市の平均を大きく8ポイント上回った。漢字を書く正答率も52.4%と市の平均を2.3ポイント上回った。 | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 漢字の読み書きの力をさらに伸長するために、漢字ドリルの利用と共に、生活の中で既習漢字を使用するよう意識付けを図っていく。 語彙を増やすために、読書や新聞を読む時間を意識的に取り入れていく。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | 平均正答率は、74.3%で市全体よりも5.1ポイント上回る。 ○文章の情報を整理する問題で5.5ポイント、目的に応じて文章を書く問題で4.6ポイント、市の平均を上回った。 | 複数の情報の関係を理解し、目的に応じた文章を書く力を伸ばすために、短文を読んで要約したり、キーワードを抜き出したりと、的確に話題を捉えて表現する活動を取り入れていく。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | 平均正答率は、64.1%で市全体よりも0.3ポイント上回る。 ○言語の由来に対する関心度は、市の平均とほぼ同じであった。 | 和語・漢語・外来語への理解を深め、言語文化への興味関心が高まるよう、古文や漢文等様々な文章に触れる機会をもつと共に、個人端末を利用し、楽しみながら語彙を増やしていく。 |
| 話すこと・聞くこと | 平均正答率は、69.6%で市全体よりも0.1ポイント上回る。 ○意図に応じて話の内容を捉える設問に関しては、正答率68.0%で市の平均を1.9ポイント上回った。 ●意図に応じて質問を工夫する設問に関しては、正答率64.1%と、市の平均を2.1ポイント下回った。 | テーマを明確にしてインタビューする活動を設定し、話の内容を捉えたり、意図に応じて質問を工夫したりできるよう支援していく。また、国語科だけでなく、全教科を通して、話し合い活動を意識して取り上げ、内容を聞き取ったり、相手の立場を考えたりできる能力を高めていく。 |
| 書くこと | 平均正答率は、63.9%で市全体よりも1.1ポイント上回る。 ○情報と情報の関係について理解し、文章を書く設問に関しては、正答率59.2%で市の平均を4.6ポイント上回った。 ●条件に従って文章を書く設問に関しては、4条件中3条件で市の平均を下回った。特に、段落に分けて記述する設問と、反論を予想して意見を記述する設問で4ポイント下回った。 | テーマに対して自分の意見を持ち、条件に合わせた文章を書いて伝えることができるよう、学校の様々な場面で、友達と話し合い、意見を交換する場面を設定していく。 |
| 読むこと | 平均正答率は、79.0%で市全体よりも4.6ポイント上回る。 ○物語文において、登場人物の心情を描写を基に考える設問に関しては、正答率92.2%で市の平均を1.5ポイント上回った。 ○説明文において、文章の内容を捉える設問に関しては、正答率72.8%で市の平均を7.6ポイント上回った。 | 物語文における登場人物の心情を捉えるために、根拠となる文中の言葉に注目し、自分の考えがもてるようにする。さらに、友達と考えを交流し、読みを深められるようにする。 |

宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| 領域別 | 観点別 | 本年度 | | |
|-----|--------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 75.7 | 71.6 | 67.5 |
| | 農業や水産業 | 88.3 | 81.5 | 82.1 |
| | 工業生産 | 78.6 | 78.7 | 70.8 |
| | 産業と情報との関わり | 81.6 | 77.2 | 68.2 |
| | 日本の政治 | 77.4 | 73.1 | 77.9 |
| | 日本の歴史 | 69.5 | 62.0 | 65.8 |
| 観点別 | 知識・技能 | 79.5 | 74.6 | 74.5 |
| | 思考・判断・表現 | 71.7 | 66.2 | 65.2 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

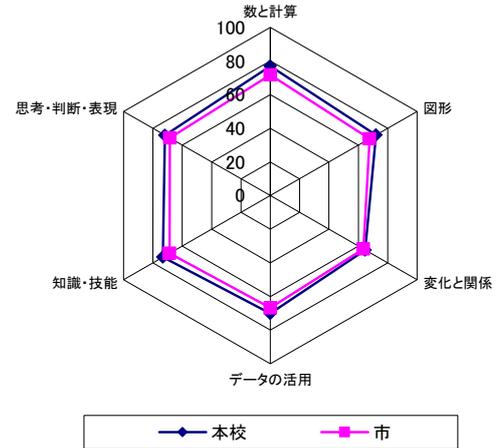
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------------|---|--|
| 国土の自然環境などの様子 | <p>平均正答率は75.7%で市の平均と比べて4.1ポイント上回る。</p> <p>○日本周辺の海洋、韓国の国旗や位置について理解できている児童が多かった。</p> <p>●日本の主な河川の名称と位置について理解できていない児童もみられた。</p> | <p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>授業等で出てきた国や海洋についてその都度調べたり、ニュースなどで話題の国々を取り上げたりして、その位置を理解させるとともに、日本との関係にも目を向けさせていく。また、都道府県や日本の主な地形について、デジタル教科書やタブレットなどを活用して確認させ、定着を図る。</p> |
| 農業や水産業 | <p>平均正答率は88.3%で市の平均と比べて6.8ポイント上回る。</p> <p>○複数の資料を読み取り、いろいろな農産物の産地について捉えることができた。</p> | <p>どんなことを表した資料なのか、資料からどんなことが分かるのか、分かったことからどんなことが考えられるのか、などを意識しながら資料を読み取るよう指導するとともに、授業の中で積極的に資料を活用できるように努める。</p> |
| 工業生産 | <p>平均正答率は78.6%で市の平均と比べて同程度といえる。</p> <p>○自動車工場の作業工程について、作業の内容を正しく理解することができた。</p> <p>●工業製品の出荷の工夫を文で表現したり、海外への輸出の移り変わりを資料から読み取ったりすることは、苦手な児童が多かった。</p> | <p>日本の貿易の特徴について、地図帳や資料などを活用し、確認させる。また、現在の様子だけでなく過去からの移り変わりを捉え、未来への思考につなげていく。</p> |
| 産業と情報との関わり | <p>平均正答率は81.6%で市の平均と比べて4.4ポイント上回る。</p> <p>○メディアの特徴を正しく理解している児童が多かった。</p> <p>●コンビニエンスストアで情報を活用するメリットについて判断することの正答率が低かった。</p> | <p>デジタル化の進展が国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや、有効な情報を正しく活用することが大切であることを、生活の中の具体的な事例から考えさせるような授業を展開していく。</p> |
| 日本の政治 | <p>平均正答率は77.4%で市の平均と比べて4.3ポイント上回る。</p> <p>○日本国憲法の三原則や国会と内閣の仕組みについて理解できていた。</p> <p>●国民の意見が政治に反映される仕組みについての判断が多少低かった。</p> | <p>自分たちの生活と政治のつながりを意識させながら、主権者としての自覚をもてるような学習を進める。</p> |
| 日本の歴史 | <p>平均正答率は69.5%で市の平均と比べて7.5ポイント上回る。</p> <p>○時代ごとの正答率には、41.7%から84.5%とばらつきがあるが、すべての問題で市の平均を上回った。</p> <p>●政治についての問題の正答率よりも文化についての問題の正答率が低い傾向がみられた。</p> | <p>年表、地図、映像、文章などの資料を活用しながら、歴史的現象を正確に捉えさせるようにしていく。また、自分の考えを根拠を示しながら文章で表現する活動を通して、知識を定着させていけるような授業を展開していく。文化については、現在の生活とのつながりを考えさせながら、理解を深めさせるように努める。</p> |

宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と計算 | 77.0 | 71.8 | 76.2 |
| | 図形 | 72.0 | 67.7 | 67.8 |
| | 変化と関係 | 64.7 | 63.4 | 62.7 |
| | データの活用 | 70.1 | 66.7 | 61.5 |
| 観点別 | 知識・技能 | 73.2 | 68.6 | 70.7 |
| | 思考・判断・表現 | 71.7 | 68.5 | 66.0 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

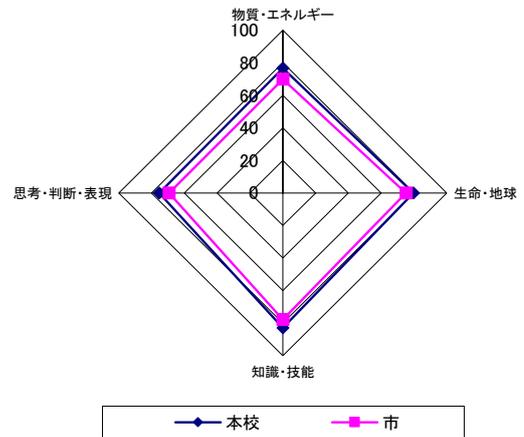
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|--|--|
| 数と計算 | <p>平均正答率は、77%であり、市の平均正答率より、5.2ポイント上回っている。</p> <p>○分数の計算で分数の除法を文章題にあった式を選ぶ問題では、正答率は75.7%で、市平均より12.1ポイント大きく上回った。</p> <p>●文字の式の2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では、正答率は59.2%で、市平均より1.1ポイント下回っている。</p> | <p>文章問題の意図するところを正しく読み取り、式の意味や計算の仕方を理解することができるように、宿題や朝の学習等で継続して取り組んでいく。今後も、計算の仕方について、既習の計算などをもとに考えることを大切に授業を展開していく。</p> |
| 図形 | <p>平均正答率は、72%であり、市の平均正答率より、4.3ポイント上回っている。</p> <p>○直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では、正答率が84.5%で、市平均より8.8ポイント大きく上回った。</p> <p>●点対称な図形について、対応する辺を求める問題では、正答率が77.7%で、市平均より4.5ポイント下回っている。</p> | <p>「対称の中心」、「対応する辺」などの図形に関する用語の理解の定着を図り、それをを用いて説明をすることができるような授業を展開していく。今後も、図形の見方を確実にすることができるよう指導の充実を図る。</p> |
| 変化と関係 | <p>平均正答率は、64.7%であり、市の平均正答率より、1.3ポイント上回っている。</p> <p>○基準量と比較量から割合を求める問題では、正答率は59.2%で、市の平均より8.7ポイント大きく上回った。</p> <p>●図から、面積と数の割合を求め最も混んでいる小屋を考察する問題では、正答率は、71.8%で市平均より、大きく8.2ポイント下回った。</p> | <p>授業で日常生活での場面を取り上げ、図から必要な情報としての面積や人数に着目し、比較して捉える学習活動を多く取り入れていく。自分で考え、根拠をもって説明したり考えを伝え合ったりする活動の充実を図る。</p> |
| データの活用 | <p>平均正答率は、70.1%であり、市より3.4ポイント上回っている。また、すべての問題で、市全体の正答率を上回った。</p> <p>○折れ線グラフの読み取りでは、正答率が87.4%で、市平均より6.6ポイント上回った。</p> <p>●帯グラフを読み取って説明する問題では、正答率が36.9%で、市平均より上回るが、正答率が低い。</p> | <p>児童の生活に関わる事柄を題材にして、統計的に問題解決をする活動を取り入れた授業を進めていくことで、データを分類整理し、分析結果を活用する力をさらに高めていく。割合と割合の計算の仕方、帯グラフの読み取り方を確認したり練習したりして、より習熟を図る。</p> |
| | | |
| | | |

宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 76.6 | 69.9 | 67.8 |
| | 生命・地球 | 79.7 | 75.1 | 73.7 |
| | | | | |
| 観点別 | 知識・技能 | 82.9 | 77.8 | 78.4 |
| | 思考・判断・表現 | 75.4 | 69.4 | 66.2 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|--|--|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は、市よりも6.7ポイント上回っている。また、前年度の本校正答率よりも5.6ポイント上回っている。</p> <p>○知識・技能は良好な結果である。特にメスシリンダーの目盛りの正しい読み方、物が燃える前後の酸素と二酸化炭素の割合の変化の正答は9割を超えている。</p> <p>●ふりこのきまりから、メトロノームのテンポを速くする方法を推測する問題は、53.4%であり市平均57.9%を下回った。</p> | <p>今後も、正確な実験結果を得るために必要な器具の正しい使い方の理解や実験結果を一人一人がしっかりとまとめ振り返る活動を重視し、知識・技能の確実な定着を図る。</p> <p>ふりこを活用したメトロノーム等、授業で学んだことを実際の生活に生かしている事象について発展的に考える機会を設けるなど、日常生活と理科の学びを結びつける指導の充実を図る。</p> |
| 生命・地球 | <p>平均正答率は、市よりも4.6ポイント上回っている。また、前年度の本校正答率よりも1.8ポイント上回っている。</p> <p>○人の体の呼吸器に関する問題は3問とも正答率が高かった。実験結果から呼吸の働きを考え記述する問題は、市より7.3ポイント、実験結果から換気の頻度を分析する問題も市より12.5ポイント高かった。</p> <p>●月の形と位置が分かる情報から、月を観察した時刻を推測する問題は、市を5.5ポイント下回った。</p> | <p>今後も、実際に実験をすること、結果から分かったこと等を文章でまとめる活動を充実させることを通して、一人一人の学びの確実な定着を図る。</p> <p>天体に関する学習は、体を使って体験的に学んだり、実際に空をみる活動を重視したり、映像資料を活用したりして具体的にイメージしながら学べるようにする。</p> |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立泉が丘小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---|--|--|
| 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を積極的、具体的に進める。 | 授業のめあてを児童に確認させ、学習の見通しをもたせてから課題解決に取り組ませるようにする。学習意欲や主体的に学習する態度を養うため、まとめや振り返りを確実にを行い、一単位時間で学んだことを理解させ、次時の学習活動につながるようにする。 思考力・判断力・表現力の育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化や、「聞く・話す」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「学び合い」活動を充実させる。 | 6年生は国語・社会・算数・理科の「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点ですべて市の参考値を上回っている。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「情報の扱い方に関する事項」での正答率が高い。これは、今年度重点的に進めてきた表現力を高める取組やICTを活用した授業の展開の成果と考えられる。また、算数での「根拠を判断し説明する問題」では、「変化と関係」の領域において市の平均正答率を下回った。 |
| 学びに向かう力等と協働して課題に取り組む態度の育成を図る。 | 社会や実生活に関連した課題を取り上げるなど、児童が興味・関心をもって取り組める課題の設定や学習内容の明確化を図る。また、ペアやグループ活動など学習形態を工夫するなど、多様な人々と互いのよさを生かしながら協働して課題に取り組む態度を養う。 | 3～6年生において、「先生や友達の話最後まできくと聞いている」と回答した児童は全学年9割を超え、市の肯定割合を上回った。基本的な学習態度が身に付いていることが分かる。しかし、「各教科の学習が好きか」の項目では、教科によって市の平均肯定割合を下回る結果で、「学習に進んで取り組んでいる」では、市の肯定割合とほぼ同じかやや下回る結果となった。 |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 各教科の「知識・技能」、「思考・判断・表現」で正答率が参考値・市平均を上回っており、基礎・基本の習得に取り組んできた結果であると考えられる。6年国語「書くこと」の領域では市の平均正答率を上回った。情報と情報の関係について理解し、文章を書く設問に関しては市の平均正答率を4.6%上回っているが、条件に従って文章を書く設問に関して、段落に分けて記述する設問と、反論を予想して意見を記述する設問で市の平均正答率を下回った。算数での「変化と関係」の領域では、図から面積と数の割合を求め考察する設問において、市の平均正答率を下回った。「自分の考えを理由を挙げながら話す」の項目では、肯定割合が64.3%に留まっている。次年度も継続して各教科で自分の考えを表現したり説明したりする指導を充実させ、一層の思考力・判断力・表現力の育成に努める。 「学校の授業が分かる」と回答した児童は全学年で9割を超え、市の肯定割合を上回っているが、「学習に進んで取り組んでいる」の項目では、市の肯定割合をやや下回る学年もあった。次年度は、児童の学ぶ意欲を高め、目標を達成できた充実感や学ぶことの楽しさを味わえるような学習活動や興味関心をもって取り組める学習課題の設定等の指導の充実を図り、学びに向かう力を育てていきたい。 |
|--|